

【小樽地方納税貯蓄組合連合会会長賞】

共に支え合う社会へ

小樽市立菁園中学校 三年

佐川 紗麗

令和四年七月十日、参議院議員通常選挙が行われ、十八歳の兄が初めて選挙権を得て、私も興味を持ち始めた。元首相が銃撃で亡くなったことに変化を受けながらも各政党の公約の物価高における消費税減税・廃止をよく耳にした。ロシアのウクライナの軍事侵攻や地球温暖化、コロナ禍において物価の値段は上昇し、人々の生活は日々苦しめられ、消費税減税は確かに有りがたい。しかし減税しても大丈夫なのか。疑問が生じ、税金について調べてみることにした。

日本の一般会計歳入額の一位は、国の借金の「公債金」で負担を次の世代に残すことになり、次に多いのが消費税である。このお金は私達の身近な所で使われ、教科書の配布や小・中・高の校舎改築、驚いたことに公立学校の児童・生徒一人当たりの年間教育費の負担額は百万円にもなるそうだ。私達が使用しているタブレット端末も税金が使われている。また科学技術発展のためにも使われ、いかに次世代の私たちのことを考え税金が使われているのか、私達は感謝しなければならぬ。

また、日本は高齢化と同時に出生率の低下による少子化が進み、二十一世紀半ばには二・五人に一人が六十五才以上の高齢化社会になるのである。私達が健康に生きていく上で必要な医療・年金・介護・福

祉などの国や地方が行う公的なサービスは「社会保障」と呼ばれているが、社会保障にもたくさん税金が使われている。これからの日本はこの少子高齢化による社会保障の負担が増し続けるため、安心して暮らせるためにも社会保障制度を支える財政構造の構築がとても重要である。

また警察や消防、全国のゴミ処理費用も税金により支えられ、憲法にもある納税の義務を果たしているからこそ恩恵を受けて、安心安全に暮らすことができていたのである。

このように私達が何不自由なく暮らせているのは、税金のおかげである。税金にはマイナスイメージがあるが、税金が多くの人々の健康や生活を守るために役立ち、何に使われているか、しっかり理解した上で納めることが重要である。人は一人では生きていけない。しかし一人では不可能なことも互いに協力し支え合うことで、安心して暮らすことができるのである。税金はみんなが助け合い協力することで存在する。一人の小さな力も積み重ねれば力を発揮し、多くの人を救う税金に生まれ変わることができる。私たちは自分が納めた税金が社会に役立つ、生活が豊かになることを意識し、税金の大切さを認識して日本の未来を創っていかねばならない。

そのために私は、納税者に感謝し、また納税する立場になったら社会の一員として誇りを持ち、明るい社会のために貢献していきたい。